

平成28年度 学校経営計画

練馬区立大泉第二中学校
校長 神山 信次郎

1 本校の教育目標

1. よく考える人になろう
2. 進んで行動する人になろう
3. 責任感の強い人になろう
4. 豊かな心をもった人になろう

練馬区教育委員会の教育目標、新学習指導要領に基づき、教職員の日々の創意と努力、保護者や地域の支えにより、59年間にわたり営々として築かれてきた学校の特色や伝統を生かして、この4つの教育目標の達成を目指すものである。

2 学校経営ビジョン

(1) 目指す生徒像 「目指す大泉第二中の教育」

1. よく考える人になろう
 - 基礎・基本の学習内容を確実に身に付ける生徒（知識・技能）
 - 自ら学び、自ら考え、意欲的に学習に取り組む生徒（学ぶ意欲）
 - 学ぶための力を身に付け、学びを活用できる生徒（学び方、思考力・判断力・表現力）
2. 進んで行動する人になろう
 - 規範意識や社会性を身に付け、社会の一員として正しく行動できる生徒
 - 将来の夢や希望をもち目標をもって、たくましく生きていける生徒
3. 責任感の強い人になろう
 - 集団の一員としての役割や責任を果たす生徒
 - 嫌なことから逃げず、何事にもねばり強くやりぬく生徒
4. 豊かな心をもった人になろう
 - 自己理解に努め、自らの生き方に自己肯定感をもって決定できる生徒
 - 他人のよさや違いを認め、相手の立場や気持ちを考えられる生徒
 - 心身を鍛え、自らの心身を健康・安全に保とうとする生徒

(2) 目指す学校像「こういう学校にしたい」

1. 「生徒が通いたい」「保護者が通わせたい」学校を目指し、地域と協働して公立の責任が果たせる学校を創造する。
学校評価の機会（授業公開や学校行事等でのアンケート）を幅広く設定し、生徒・保護者・地域の期待や要望を受け止め、公立学校の使命を果たしていく。
2. 各教科の基礎的な学力を身につけさせるために「わかる授業」「わからせる授業」を工夫し、生徒自ら意欲的に学習に取り組む生徒を育成する。
積極的に授業改善に取り組み、個々の生徒の実態に応じた学習を意図的、計画的に組織していく。授業評価などを通して、現状の把握に努め、常に授業力の向上に努めていく。
3. 情報開示を積極的に行い、学校の責任説明を果たすとともに、保護者・地域から信頼される開かれた学校作りを進めていく。
学級・学年・学校便り・ホームページ及び学校評議委員会等を利用して、情報発信を積極的に行い、学校支援体制を確立していく。また、保護者会や学校行事を工夫し、地域や保護者の学校参観

者数の増大を目指す。

民生委員や関係機関との連絡を密にして学校不適応・不登校生たちの学校支援を進めていく。

(3) 目指す教師像「私たちの姿勢」

- 1 生徒の利益第一の視点で、使命感と学校経営への参画意識をもち、サービスの厳正に努める教師
→教育公務員として、生徒の人格形成に大きな影響を与える職務に携る者として、その使命と職責を深く自覚し、服務規律の厳正に務める。
- 2 生徒との関わりを重視し常に生徒理解に努め信頼関係を築き、生徒の個性とよさを伸ばし、生徒に達成感や自己肯定感をもたせ、最後までねばり強く生徒の指導、支援に努める教師
→生徒理解が指導の基本である。生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の教師及び組織を通して効果的に生徒指導、学習指導に生かしていくことが大切である。日々の生徒との信頼関係を築き、善悪の判断をもたせ、けじめをつけさせ、苦しくとも粘り強く指導し、生徒の個性の伸長や主体的態度の育成を目指す。
- 3 危機意識、当事者意識をもって研修に励み、専門性を磨くとともに、豊かな人間性を身につけるように努める教師
→問題を整理し、解決することに傾注し、当事者意識で問題の解決にあたる。事後対応の迅速さ、的確さ大切で、初期対応で決まる。情報は速やかに正確に報告し、管理職から指導について指示を受ける

3 経営の基本方針

「生徒の利益を第一に考え、厳しさのなかにも温かさのある指導に努める。」

1 小中学校の連携・協力を一層図り、9年間を見通した教育を推進する

学校公開日や保護者会、学校行事等に保護者、関係小保護者及び地域へ積極的に呼びかけ、小学校の児童や保護者をより多く参加できるよう工夫し、本校の良さをわかりやすく示し、学校と家庭、学校と地域との信頼関係を積極的に深める。

2 基礎的・基本的な学力の定着を図り、学力の向上を目指す。

- ・ 生徒理解に基づき計画的な授業を展開する中で、生徒の課題把握と課題解決に向けて生徒一人一人への指導援助を実施（質問教室・補充教室・考査前補充学習等を実施）
- ・ 改善推進プランに基づき、学校全体として内容、指導方法について共通理解を図り、研究授業を通して教師の授業力を高める。
- ・ 教材研究、指導方法の工夫など授業の改善に努め、知らないことを知り、わからないことをわかった喜びや困難を乗り越えてやり遂げた達成感を生徒に実感させる。また、パソコン教室、電子黒板、モニターなどを活用した ICT 教育の推進していく。
- ・ 授業規律を徹底し、生徒の学習態度や意欲を向上させていく。
- ・ 家庭との連携をとり、評価の改善と家庭学習の定着に努める。また、生活の規律や遅刻など、忘れ物や授業の集中力など、家庭には子ども様子を詳しく情報提供することにより、保護者への協力も要請していく。
- ・ オリンピック・パラリンピック教育等、教育活動全体を通して推進していく。

3 道徳教育の指導力を向上させ、心の教育を推進する

道徳教育推進教師が中心となり、人権課題を取り上げながら、全教師が協力して道徳の時間における指導方法を工夫し計画的に実施する。道徳授業地区公開講座を活用して、家庭や地域と意見交換することで、相互の思いや願いを理解し合い開かれた道徳教育・心の教育を推進する。

人権尊重の教育を基調に、差別や偏見を否定し、一人一人の生徒が大切にされる集団を作る。また、他を思いやることのできる学年、学級作りを目指す。

4 心豊かで思いやりのある心を持てる生徒を育てるためにも物的環境、人的環境の整美・充実に努める。

生徒の心的成長と学校の安定化を促す一貫性のある生活指導の方針と態度で指導にあたる。特に気持ちのよい挨拶や正しい言葉遣いができるよう、全教職員が率先垂範し、言語環境を整える。また、「環境の整美（人的な環境整美と物的な環境整美）」に重点的に取り組む。

- 5 **互いに支え合い、いじめが起こりにくい集団づくりにあたり、いじめを未然に防止するとともに、「学校いじめ防止基本方針」に基づいて、組織的にいじめ問題への早期発見・早期対応を図る。**
いじめ状況聞き取り調査を年間を通して月に1回実施し、絶えず状況を把握し、校内いじめ対策委員会で正しい情報の共有化を図り、指導にあたる。授業をはじめ学校行事や部活動など子どもに主体的に活動させ、活躍の場を与え、相互に支え合い高め合う集団を形成する。生徒に所属感をもたせ、自尊感情を高めることで、いじめが起こりにくい土壌をつくる
- 6 **信頼関係に基づいた生活指導を進めるとともに、教育相談を充実させ特別支援教育への対応を図る**
日頃から担任を中心として生徒・保護者から安心して相談できる関係を築き、相談には組織的に丁寧かつ迅速に対応する。特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会を定期的に開き、正確に情報の共有化を図り、SCの意見を参考にしながら組織的に対応し関係諸機関と連携を図る。
- 7 **安全教育をより一層推進し、安全・安心な環境にする**
「不審者対応の手引き」および「地震対策の手引き」を活用し、分担を明確にし校内体制を構築する。避難拠点運営連絡会の協力を得ながら、総合的な学習の時間に生徒自身に防災意識や防災行動について気付かせ、災害に備える意識を高める。また、生徒、保護者、地域に学校の対応について周知徹底を図り、保護者には引き渡し方法や緊急一斉メール等の連絡訓練を通して保護者との連携を一層図る
- 8 **教育予算を効果的に計画し、適切に執行する**
特色ある教育活動の予算を有効に使い、多様な体験学習や地域の教育力の活用を図る

4 学校運営にあたって

- (1) 小学校との教科の連携や交流を図り、互いの学力観や指導観、児童生徒観について理解を深める。
(小中一貫教育の推進)
- (2) 教えるべきことはしっかり教え、生徒に分かりやすく考えさせる授業を展開し、家庭学習の定着とも関連させて、生徒の基礎学力の定着と伸長を図る。(学習指導の充実・家庭学習の定着)
- (3) 心身の健康の増進と人権や生命を大切にする教育を一層推進する。(体力の向上と道徳授業の充実と豊かな心の育成)
- (4) 不登校生との支援を充実し、特別支援教育を推進する。(特別支援教育への対応)
- (5) 災害に備える意識を高めるなどの安全教育を推進し、信頼され開かれた学校づくりを推進する。
(安全教育の推進・家庭、地域との信頼関係の構築)

5 実践に向けて重点目標と方策

項目	中期的目標と方策	今年度の重点目標と方策
特色ある教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○体験的な学習や総合的な学習の時間など地域の人とかかわる体験を通じ、生き方指導の充実を図る。 ○読書活動を推進し、言語環境を整え、言語活動の充実を図る。 ◎<u>小学校や石神井特別支援学校との連携や交流を図り、互いの学力観や指導観、児童生徒観について理解を深め9年間を見通した学習指導・生活指導等の充実を図る。</u> ◎<u>学校行事と部活動には生徒を積極的に参加させ、個性を伸ばし、自信をもたせ、集団への所属感や責任感を育てる。</u> ◎<u>学習指導要領の趣旨の実現に努め、生徒の基礎学力をつける</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動に地域の人材を活用し、多様で柔軟な授業を展開し、生徒を地域社会とふれ合わせ、相互理解を深める。(防災教育の充実) ○朝の読書活動を行い、<u>学校図書館の活用を図り、調べ学習や読書を奨励して、言語に関する能力を高める。(課題作文・税の作文)</u> ◎<u>小学校と校區別協議会や授業等を通して、教職員が、互いの学力観や指導観、児童生徒観について意見交換し理解を深める。また、PTAも関わり石神井特別支援学校と生徒同士の共同及び交流を図る</u> ◎<u>教職員全員で指導にあたり、生徒の心身を鍛錬し、意欲を喚起させる。生徒の多様な個性を生かし自立性を伸ばすとともに、集団として協調の精神を育てる。</u> ◎<u>各教科・領域の指導計画・評価計画を検証し、指導と評価の一体化を図り、計画的に教育活動を進める。</u>

<p>学習指導 (教科指導)</p> <p>(道徳)</p> <p>(総合的な学習の時間)</p>	<p>◎各教科で授業のねらいを明確にし、「わかる授業」「わからせる授業」を工夫し、個に応じた指導の充実を図りながら、基礎・基本の徹底と学ぶ意欲を高め、学力の定着・伸長を図る。</p> <p>◎家庭における学習習慣を確立するための指導を工夫し、保護者の理解と支援を要請する。</p> <p>◎豊かな体験を通して生徒の内面に根ざした道徳性を育成する。</p> <p>○体験的な学習活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育成し、学び方やものの考え方を身に付けさせる。</p>	<p>◎授業において、黒板に「本時の目標・ねらい」を明確に示し生徒に見通しをもたせ、教えるべきことは教え、考えさせることは考えさせ、教材など指導法を工夫・改善し、習熟の程度や興味・関心に応じた指導を実践する。</p> <p>◎言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を発揮できる授業を展開する。課題解決的な学習を各教科の年間指導計画に位置づけ、実践・検証を行う。</p> <p>◎学習のきまりを生徒に明確に明示し、授業規律の維持にあたり、安全を確保する態度を身に付けさせる。</p> <p>◎生徒理解に基づき計画的な授業を展開する中で、生徒の課題把握と課題解決に向けて、生徒一人一人への指導援助を実施（質問教室・補充学習・考査前補充学習等を実施）し、学力の定着を一層図る。</p> <p>○週案に週の指導計画を立て、指導に生かされるように内容を記録し、提出する</p> <p>○学力調査の結果を分析し、授業改善推進プランに明記し、授業改善にあたる</p> <p>◎学習指導要領を踏まえ、学習の過程を大切にしながら指導の改善に生かす評価を行うとともに、評価資料を基に適切な評価・評定を行い、保護者にきちんと説明できるようにする。</p> <p>◎生徒や保護者に家庭学習の手引きを示し、学び方を教え、授業と関連した宿題等を出し、家庭学習を習慣付ける。生徒や保護者にわかりやすく学習の状況を示し、面談で学習課題を明確にし、解決を図る。</p> <p>◎道徳の時間を確保し、道徳教育推進教師を中心に、全体指導計画及び年間指導計画に基づいて、人間として生きる喜びを見出し、人権課題を取り上げ、道徳指導を展開し、計画的に実践する。</p> <p>○人とかかわりを学び、自己の生き方を考えさせ、社会性やコミュニケーション能力を育成する。（卒業生のお話を聞く会・生き方講演会等）</p>
<p>生活指導</p>	<p>◎時間を守らせ、挨拶をしっかりと行わせるなど、基本的な生活習慣の確立を図り、生徒の規範意識と社会性を高める。</p> <p>◎教育相談を充実させ、「いじめ・不登校」の早期発見・早期対応を図り、家庭との連携を強化し、信頼関係を構築するとともに、関係諸機関と連携を図る。</p>	<p>◎あらゆる場面で教師が率先垂範し、生徒にしっかりと行わせる。教師と生徒、生徒同士の信頼関係を基盤におき、生徒理解に基づいて、情報を収集し、時機を逸せず毅然とした対応ときめ細かな指導を行う</p> <p>◎いじめ実態調査を月1回実施し、いじめを絶対に許さない学校づくりを推進する。</p> <p>◎登校支援シート活用しながら生徒一人一人の実態を的確に把握し校内体制を充実させ、関係諸機関と連携し、いじめ・不登校等にきめ細かく組織的・効果的に対応する</p> <p>○他者の個性を尊重し自己の個性を發揮しながら職場体験等、人とかかわり望ましい勤労観や職業観を身に付けさせ、生き方指導の充実を図る</p>
<p>進路指導</p>	<p>○生徒に自己理解を深めさせ、体験活動を充実し望ましい職業観をはぐくむキャリア教育を推進する。</p> <p>○生徒に卒業後の進路を主体的に選択させ、将来の生活において自己実現を図ろうとする態度を育てる</p>	<p>○3年間を見通した進路指導計画を立案し、組織的・計画的に実施する（進路便りの発行等）</p>

<p>学校運営</p>	<p>◎<u>教職員一人一人が使命と職責を深く自覚し、サービスの厳正に務める</u></p> <p>◎<u>組織的に職務を遂行するために、OJTを効果的に実践する</u></p> <p>○<u>学年間・分掌間の連携を密にし、学校全体の組織力を強化する。</u></p> <p>◎<u>特別支援教育の推進を図る。</u></p> <p>○<u>学校評価・学校関係者評価を分析し、適切な学校評価を行う。</u></p> <p>◎<u>環境美化に努め、安全で落ち着いた学習環境を整備する</u></p> <p>◎<u>「不審者対応の手引き」および「地震対策の手引き」を活用し、学校の具体的な対応について生徒、保護者、地域に伝え、安全教育をより一層推進する</u></p>	<p>◎<u>資料を活用しながら研修を実施し倫理観の醸成を図る。日常的に教職員の人間関係に留意し、ムカハルズに配慮する。気になる言動への指導・対応を図り、サービス規律を確保する。</u></p> <p>○<u>主幹・主任教諭を中心に役割を明確にし、連携しながら若手教員の育成に積極的にあたる。</u></p> <p>○<u>主幹や主任および分掌間の各教員の役割を明確にし、企画委員会を通して、学年間・分掌間で課題を明確にし解決に向けて協働的な取り組みを行う。</u></p> <p>◎<u>学校生活支援員の活用を図るとともに、通級学級等と連携し、生徒理解を深める。</u></p> <p>○<u>学校評議員会の機能を図り、学校関係者評価を分析して、課題の明確化と具体的に改善策を示すことで、保護者・地域への説明責任を果たす。</u></p> <p>◎<u>教室や廊下など汚れは、すぐに清掃するなど日常の清掃活動を充実させ、掲示物にも注意を払い、隅々まで細かく気を配り、教育環境を整える。定期的に施設点検を実施し、改修等必要がある箇所は迅速に対応する。</u></p> <p>◎<u>様々な訓練を通して、生徒自身に防災意識や防災行動について気付かせ、災害に備える意識を高める訓練や緊急一斉メールなど家庭との連絡方法について周知徹底を図る。「不審者対応の手引き」を活用し、生徒と教職員の命を守る。</u></p>
<p>特別活動</p>	<p>○<u>学校行事を通して、一人一人の生徒を主体的に活動させる。豊かな感性や創造力をはぐくむ。</u></p>	<p>○<u>文化的・体育的行事の実行委員会を中心に、ねらいを明確にし、あり方を見直すとともに、生徒を主体的に運営に参加させ、充実感と達成感を与える。</u></p>
<p>研究・研修</p>	<p>◎<u>授業力の向上を目指し、授業研究を推進する。</u></p> <p>◎<u>生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行う</u></p> <p>○<u>生徒理解に関する研修を充実させる</u></p>	<p>◎<u>学習指導要領の具体化を図るために、一斉に教科ごとの研究授業・協議会をもち、互いに日々の実践の成果を共有化し、指導に活かす。</u></p> <p>○<u>区中研の研修等に積極的に参加し、指導法の工夫・改善を図り、日々の実践に生かす。</u></p> <p>○<u>校内研修のテーマは、生徒の実態を踏まえ、教育課題を見据えて、自己研鑽が高まる授業研究・事例研究・講演を設定する。</u></p> <p>◎<u>特別支援教育の推進を図る研修会や事例の研修会を実施し、生徒理解を深める。</u></p>

6. 私の決意「全て子どもたちの成長のために」

- ①学校教育の進むべき方向を考え、創造的に改善し、発信できる学校を目指します。
- ②誠実、謙虚の気持ちを常に忘れず、教職員、保護者、生徒、地域の方々の意見や提案に耳を傾け、期待に応える学校を目指します。
- ③仕事はできるだけ分担・協力させ、組織を生かすようサポートします。
- ④生徒のためになる新たな提案や企画はできる限り臨機応変に取り上げ、実現に努め、責任は校長が取ります。
- ⑤できる限り校内を巡視し、安全確認、生徒・教職員の状況・様子の実態把握に努め、改善点は素早く対応します。
- ⑥地域や家庭にはできる限り足を運び、教職員・生徒たちの活躍や成果を伝えます。
- ⑦相手の立場や心を大切にす礼節は大事にします。